



運動会 2019. 8. 31



伝承館見学(3年) 2019. 9. 13

# 令和元年度(平成31年度) 学校評価のまとめ

気仙沼市立鹿折中学校 令和2年2月

中学生はもうじき大人になろうとしている人たちです。ですから、子ども扱いせず、自覚と責任を持たせ、自立した人間になるよう励ますことが大切です。中学校は社会生活を学ぶ場であり、同級生や先輩後輩、教師等との交流から自立した人間を育てる場です。もちろん、集団生活ですから、家庭とは違って厳しい面もあります。嫌なことや苦しいことも経験します。しかしそれは、大人と同様に更なる成長への好機ともなります。中学校とはそのような場所です。

そんな中学校では、生徒が主役です。教師や保護者は脇役となり、良き助言者、支援者でありたいものです。よって、学校の当事者は、一に生徒、二に教師、三に保護者です。良い学校とは、この三者が役割を自覚し、責任を果たし、良い取組をする学校ではないでしょうか。

本校が更に前に進むためのヒントを求めて学校評価をしてきました。保護者の皆様には、アンケートにご協力いただき、大変ありがとうございました。貴重な声を生かしてまいります。今年度の評価のまとめを以下にお知らせいたします。そして、学校へのご協力を今後もお願いするとともに、各ご家庭での良い実践をお願いするものです。

## 第1部 「鹿折中学校の現状を把握する」

### A 生徒の評価から

#### A (1) 生徒が「高く評価」をしている内容

生徒がA「当てはまる」、または、B「だいたい当てはまる」と回答して、高く評価している質問事項

順位	A + B %	質問事項	新入項目
1	94.8	私は、家族との対話があり、家族の一員としての自覚をもって生活している。	
2	93.8	私の家族は、物事の善悪の判断を教え、規律や礼儀を守って生活するように私を指導している。	
3	92.8	私の家族は、私のことを大事に思い、愛情を向けたり、励ましたりしてくれている。	
4	88.7	私は、学校行事(運動会・文化祭など)に積極的に取り組んでいる。	
4	88.7	鹿折中の先生は、生徒の努力や能力を適切に評価して認めている。	※
5	87.6	鹿折中の先生は、部活動を顧問として適切に指導をしている。	
5	87.6	鹿折中の先生は、健康や食育、安全や防災等について指導している。	
5	87.6	鹿折中の先生は、学級や生徒会の活動をきちんと指導をしている。	※

アンケートからは、本校の生徒は、家族との対話があり、家族の一員としての自覚があると感じていることが分かります。また、その家族は自分に愛情を向けて励ましており、善悪の判断や規律・礼儀等を指導してくれていると感じる傾向が強いです。生徒と家族とのよい関係が伺われます。

また、教師については、生徒の努力や能力を適切に評価し、部活動、健康や食育、防災等を

適切に指導し、学級や生徒会もきちんと指導していると感じる生徒が多いようです。家族との関係だけでなく、教師への信頼も高い傾向があると言えます。

このような家族の愛情、教師への信頼の下で、生徒は学校行事に積極的に取り組んでいます。この傾向は昨年度と概ね一致します。なお、表中の※印は昨年度には無かった新入項目です。

## A (2) 生徒が「低く評価」をしている内容

生徒がA「当てはまる」、または、B「だいたい当てはまる」と回答して、低く評価している質問事項

順位	A + B %	質問事項	新入項目
1	62.9	私は、スマホやゲーム機などをはじめをもって正しく利用している。(メディア利用)	※
2	68.0	私は、「未来を見すえ、心豊かに、力強く、学び続ける生徒」(教育目標)に近づいている。	
3	71.1	私は、よい「生活習慣」を身に付けている。(食事、睡眠、あいさつ、整理整頓など)	
4	73.2	私は、将来へ夢や希望をもっている。	
5	73.8	鹿折中の先生は、生徒をよく理解し、一人一人を大切にしている。	※

一方、アンケートで生徒が低く評価しているものを見ると、「自分自身」に関する内容が多く見られます。

まず、スマホやゲーム機などで、はじめのあるメディア利用ができていないことが一番目です。全校生徒の3分の1は、自分のメディア利用に問題を感じています。そのことと関連しますが、よい「生活習慣」(食事、睡眠、あいさつ、整理整頓など)を身に付けていないと感じる傾向があります。そして、昨年度と同様に、将来への夢や希望は弱く、学校教育目標である「未来を見すえ、心豊かに、力強く、学び続ける生徒」に近づいてはいないと感じる傾向があるようです。今後、学校や家庭は、生徒のこのような側面へのアプローチにもっと力を入れて取り組まなければなりません。

また、教師に対しては、生徒をよく理解し、一人一人を大切にすることを今以上に求めているようです。このことについては、教師自身の振り返りが必要です。そして、全体指導だけでなく、個別指導の充実を大切にしなければならないと思われまます。

表にはありませんが、昨年度と比べると、生徒が他の人へ優しく公平に接することや、教師の教科指導を楽しく感じる事などは向上したようです。今回は上位にはなく。改善傾向にあると見られます。

## B 保護者の評価から

### B (1) 保護者が「高く評価」をしている内容

保護者がA「当てはまる」、または、B「だいたい当てはまる」と回答して、高く評価している質問事項

順位	A + B %	質問事項	新入項目
1	91.4	お子様は、家族との対話があり、家族の一員としての自覚をもって生活をしている。	
2	90.4	学校は、お便りやメール、ホームページ等で様子を伝え、連絡事項等の周知を図っている。	
3	89.4	学校は、健康や食育、安全や防災等について適切に指導をしている	
4	88.0	学校は、生徒の努力や能力を「適切に評価」している。	※
5	87.2	私の家庭では、子どもとの関係がよく、概ね家庭教育がうまくいっている。	※

アンケートで保護者が高く評価している内容は、先の生徒の評価とも一致しています。保護者は、子どもが家族との対話があり、家族の一員としての自覚をもって生活していると感じています。これは生徒も同様でした。また、保護者は子どもとの関係がよく、概ね家庭教育がうまくいっていると感じる方が多いようです。一方、生徒も家族が自分に愛情を向けており、善悪の判断や規律・礼儀等を指導してくれていると感じていることから、本校生徒の親子関係は良好のように思われます。このことは、各家庭に家庭教育の基盤ができていていることを示すものだと思います。

また、保護者は学校が連絡事項等の周知をし、生徒の努力や能力を適切に評価し、健康や食育、安全や防災等について適切な指導をしていると捉え、高く評価しているようでした。

しかし、表にはありませんが、昨年、保護者は生徒全体が規律や礼儀を守り、互いに思いやりある生活をしていると良い評価をしていましたが、今回はそうではありませんでした。

## B (2) 保護者が「低く評価」をしている内容

保護者がA「当てはまる」、または、B「だいたい当てはまる」と回答して、低く評価している質問事項

順位	A + B %	質問事項	新入項目
1	44.7	私の家庭では、鹿折中学校のホームページを見ている。	※
2	48.4	お子様は、スマホやゲーム機などをけじめをもって正しく利用している。(メディア利用)	
3	58.1	学校は、いじめや不登校のない学級(学校)づくりに取り組んでいる。	※
4	60.6	お子様は、よい「生活習慣」を身に付けている。(食事、睡眠、あいさつ、整理整頓など)	
5	63.4	鹿折中生の印象は、粘り強く学習し、学習面での活躍もめざましい。	

ホームページの件はさておき、保護者が低く評価したのは、生徒のスマホやゲーム機のけじめのある利用(メディア利用)のことです。また、生徒の「生活習慣」(食事、睡眠、あいさつ、整理整頓など)のことです。これも生徒の認識と一致します。保護者の目から見ても、この問題は大きく感じられるのでしょうか。多くの家庭では生徒のメディア利用や生活習慣への懸念があることが伺われます。その影響は具体的にどう表われているのでしょうか。先のように親子関係がよく、家庭教育の基盤ができており、生徒も家庭の愛情を感じていることから、今後、家庭の指導が成果を上げる可能性は高いと思います。各家庭が歩調を合わせた共通の指導をしてみてもどうかと思います。

県教育委員会の調査では、中学1年生のメディアの利用時間は年々増加しており、令和元年は一日1時間以上利用する生徒は全体の60%程度でした。中学2・3年生はそれ以上と予想します。これは全県的な問題です。このことと関係があるかどうか、鹿折中生徒が粘り強く学習し、学習面でも活躍していると感じる保護者は少ないようです。そして、いじめや不登校のない学級(学校)づくりの点にも懸念があるようです。メディア利用や生活習慣は、学習、いじめ、不登校などに広く影響するかもしれません。家庭と学校の工夫や協力が必要です。

表にはありませんが、昨年は「家庭学習」の実施への評価が低かったのですが、保護者の評価は変わりました。家庭学習を行う習慣形成はある程度できてきたのかもしれない。

## C 教師の評価から (令和元年度学校教育目標、学校経営方針、重点努力事項の達成状況)

では、教師の評価をご紹介します。教師は1学期末と2学期末に、今年度、学校が掲げている目標や方針、重点などについて評価をしました。以下にその内容を整理しました。

数値は、「A」…はい、または「B」…どちらかと言えばはいと、肯定的な回答をする教師の割合  
評価は、「○」…良い方向にある、「□」…どちらともいえない、「▼」…悪い方向にある

### C (1) 学校教育目標 (Q「学校教育目標」と「めざす生徒」は実現の方向にあると思いますか?)

番号	評価項目	(数値はA + B%)	1学期	2学期	評価
①	学校教育目標	自ら未来を見据え、心豊かに、力強く、学び続ける生徒の育成 「未来を夢見る人間になろう」	93.0	94.0	○
②	目指す生徒像1	学ぶ意欲に満ちた生徒(知)	87.0	100.0	○
③	目指す生徒像2	認め合い、高め合う生徒(徳)	87.0	94.0	○
④	目指す生徒像3	目標をもち、心身を鍛える生徒(体)	93.0	88.0	▼
⑤	目指す生徒像4	夢や志をもって未来を歩む生徒(志)	87.0	88.0	□

上表の教師の評価の数値は、選択肢A～Dで、「A」(はい)と「B」(どちらかと言えばはい)のどちらかに答える割合です。つまり、「肯定的回答の割合」(A + B%)なので、数値的には高く出するため、少し割り引いて考える必要があります。

それを踏まえても、学校教育目標に対しては、1・2学期ともに肯定的回答が9割を超えており、実現の方向にあると感じているようです。(生徒の自己評価とは異なっています) また、目指す生徒像1「学ぶ意欲に満ちた生徒(知)」, 目指す生徒像2「認め合い, 高め合う生徒(徳)」についても、よい方向にあると思っています。教師が課題とするのは、目指す生徒像3「目標をもち, 心身を鍛える生徒(体)」が低下傾向にあること, そして、目指す生徒像4「夢や希望をもって未来を歩む生徒(志)」の手応えが得られていないことです。

### C (2) 学校経営方針 (Q学校経営の方針は徹底されていると思いますか?)

番号		評価項目 (数値はA+B%)	1学期	2学期	評価
①	理解と愛情	生徒をよく理解して、一人一人に愛情を向けた教育活動を推進する。	94.0	94.0	○
②	生徒の活動	生徒の活動を大切に、生徒に考えさせて、主体的な学校生活をさせる。	93.0	100.0	○
③	夢や希望	一人一人の夢や希望を育み、未来への期待と意欲を高めるようにする。	87.0	88.0	□
④	学力の向上	教科等の指導の充実を図り、個々の学力を確実に向上させる。	93.0	100.0	○
⑤	爽やかな生活	望ましい生活習慣を育み、他者への優しさのある、爽やかな生活をさせる。	93.0	81.0	▼
⑥	3年間の総合	主体的に学ぶ総合的な学習を工夫し、3年間を見通した効果的な指導を行う。	86.0	82.0	□
⑦	3ポイント	SDGsを活用したESD, 言語活動の充実, 誉めること(叱ること)を大切にする。	80.0	69.0	▼
⑧	安全安心と働き方	生徒の安全・安心な学校生活と、教職員の適切な働き方を工夫する。	73.0	75.0	▼
⑨	協働・連携	保護者と協働し、地域と連携し、家庭や地域と共に歩む学校づくりをする。	93.0	94.0	○

上表は学校経営方針が徹底されているかどうかを教師が自己評価したものです。ですから、この表は成果ではなく、取組の充実度を示します。

教師としては、①生徒を理解して一人一人に愛情を向けること、②生徒の活動を大事にして主体的な学校生活をさせること、④教科指導を充実させて学力の確実な向上を図ること、そして、⑨保護者や地域と協働・連携した学校づくりをすることにしっかりと取り組んだと思っています。しかし、生徒理解や一人一人への教育については、生徒の評価が先に述べたように否定的であったことを踏まえて再度考えてみなければなりません。

一方教師は、③一人一人の夢を育み、未来への期待と意欲を高めることは十分ではなかったかもしれません。前述のように、このことについての生徒の意識は十分ではないことが分かっています。教師の取組との関連はどうでしょうか。そして、⑥3年間を見通した総合的な学習への指導の部分でも教師は不十分さを感じているように見えます。

さらに、下降傾向や徹底の弱さを感じられたのは、⑤望ましい生活習慣や優しさのある爽やかな生活、⑦SDGsを活用したESD, 言語活動の充実, 誉めること(叱ること)、⑧生徒の安全安心な学校生活や教員の働き方の工夫などでした。

これらの経営方針は、今年度新たに掲げたものです。更なる実践が必要だと考えます。

### C (3) 重点努力事項 (Q重点努力事項への取組が実際にされていると思いますか?)

番号		評価項目 (数値はA+B%)	1学期	2学期	評価
①		学力を確実に向上させる工夫	87.0	88.0	□
②		生活習慣をしっかりとさせる工夫	80.0	75.0	□
③		「心の教育」を豊かにする工夫	63.0	56.0	▼
④		総合的な学習をより効果的にする工夫	94.0	75.0	□
⑤		生徒を励ます、生徒に考えさせる環境づくりの工夫	94.0	100.0	○
⑥		生徒の活動で主体的な生活と仲間づくりを支援する工夫	80.0	94.0	○
⑦		生徒の安全・安心な生活と健康づくりを実現する工夫	93.0	94.0	○
⑧		教職員の適切な働き方を実現する工夫	47.0	63.0	▼

この重点努力事項も今年度新たにしましたものです。この表は重点努力事項に対して具体的な取組が実際になされたかどうかを振り返ったものです。

数値からは、⑤生徒を励ます、生徒に考えさせる環境づくりをすること、⑥生徒の活動で主

体的な生活と仲間づくりをすること、⑦生徒の安全・安心な生活と健康づくりをすることについては実際に取り組まれていたと考えられます。

しかし、①学力を確実に向上させること、②生活習慣をしっかりとさせること、④総合的な学習をより効果的にすることについては、まだ取組の余地がありそうでした。

そして、③「心の教育」を豊かにすること、⑧適切な働き方を実現することについては実際の取組が不十分であり、課題があるという結果でした。

これらの取組状況が先の生徒の意識に影響しているかもしれません。

## D 今年度の評価指標（目標）から見た生徒の実態（意識面）

数値は、生徒が当てはまる、だいたい当てはまると回答した割合（A+B%）

○…目標を達成している □…目標から10ポイント以内に迫る ▼…目標から10ポイント以上離れている

番号	質問項目	H30年度 2学期末	R1年度 目 標 A	R1年度 2学期末 B	R1目標 との差 B-A	市全体 の目 標 との差	評価
①	毎日、家庭学習に取り組んでいますか。（塾を含む）	86.0	90.0	86.0	-4.0		□
②	学校での毎日の授業に集中して取り組んでいますか。	78.9	85.0	89.0	4.0		○
③	早寝、早起きを意識して生活していますか。	82.5	90.0	71.0	-19.0		▼
④	自分から進んであいさつをしていますか。	85.1	90.0	88.0	-2.0		□
⑤	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	69.3	80.0	60.0	-20.0	-25.0	▼
⑥	自分にはよいところがあると思いますか。	68.4	80.0	67.0	-13.0	-18.0	▼
⑦	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	68.2	60.0	62.0	2.0	+2.0	○
⑧	将来の夢や希望をもっていますか。	82.5	90.0	76.0	-14.0		▼
⑨	学校に来るのは楽しいと思いますか。	93.9	95.0	80.0	-15.0		▼
⑩	地域や社会をよくするために何をすべきか考えますか。	58.8	70.0	46.0	-24.0	-29.0	▼
⑪	自分の未来に期待をし、その実現に意欲をもっていますか。		60.0	65.0	5.0		○
⑫	社会の未来に期待をし、その実現に意欲をもっていますか。		60.0	46.0	-14.0		▼
⑬	生徒の活動が充実し、主体的な学校生活になっていますか。		70.0	81.0	11.0		○
⑭	自分の学力は確実に向上してきていると思いますか。		70.0	66.0	-4.0		□
⑮	自分の生活習慣はよいと思っていますか。		80.0	52.0	-28.0		▼
⑯	他の人に優しく接していますか。		80.0	92.0	12.0		○

学校では、今年度の学校の取組が成果を上げたかどうかを測る物差しとして、あらかじめ評価指標（目標）を設定していました。これは生徒の意識面から取組の成果を測るものです。その結果は上の表のようになりました。

目標を達成した内容を列挙してまとめると、生徒が②学校での毎日の授業に集中して取り組むようになり、⑦友達の前で自分の考えや意見を発表することも得意になり、⑪自分の未来に期待をして実現に意欲がもてるようになって、⑬生徒の活動が充実して主体的な学校生活をし、⑯他の人に優しく接することができるようになりつつあるということです。

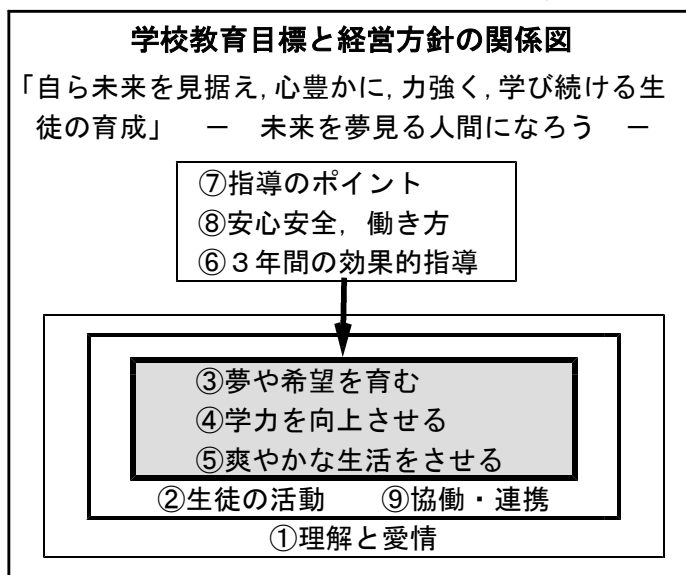
また、まだはっきりと成果が出せていないのは、①毎日、家庭学習に取り組むことであり、④自分から進んであいさつをすることであり、⑭自分の学力が確実に向上してきたと思えるようになることでした。生徒の努力や、教師の取組の余地はまだありそうです。

一方、課題が明確だったのは、③早寝、早起きを意識して生活をし、⑮自分の生活習慣はよいと感じられるようになることです。そして、⑤難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦をし、⑥自分にはよいところがあると思えるようになることです。また、⑧将来の夢や希望がもてて、⑨学校に来るのが楽しいと思い、⑩地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるようになって、⑫社会の未来に期待をし、その実現に意欲がもてるようになることです。……このように改善すべき課題が見えています。

この結果は先に述べた生徒・保護者・教師の評価結果と概ね一致していると思います。

## 第2部 「鹿折中学校の来年度を構想する」

### (1) 学校教育目標、経営方針、重点努力事項等



基本的には、来年度も今年度の内容を継続します。学校教育目標は従来のもですが、今年度、生徒向けのスローガン「未来を夢見る人間になろう」を制定して経営方針や重点努力事項を刷新しました。しかし、生徒の未来を夢見る姿はまだ弱いので、継続して2年目に取り組み、更なる成果を導きます。(P.3のC(1)～(3)を参照)。

なお、経営方針の9項目の関係は左図のように捉えています。教育目標を達成するために、生徒への①理解と愛情をベースにして、②生徒の活動や、保護者・地域との⑨協働・連携を大事にする。そして、教師が⑦指導のポイントをpushし、⑧生徒の安心安全や教師の働き方を工夫しながら、⑥

3年間の効果的指導をする。そのことで、③生徒の夢や希望を育み、④学力を向上させ、⑤爽やかな生活を目指すというものです。なお、評価指標は来年度も同様とします。(P.5のD参照)

### (2) 工夫・検討したい事項等

来年度の教育活動の具体については、今後工夫・検討していきませんが、以下の方向性を意識して、実践やその継続を試みたいと思います。そして、具体の成果を上げることで、最終的に、本校生徒が鹿折中学校を……①学力がつく学校、②未来が見える学校、③仲間がいる学校、④先生が好きだと思える学校にしていきます。

実践や継続の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で一層の「志教育」の充実を進める</li> <li>・学力向上のための具体的な戦略を導入する</li> <li>・校内の取組や情報の「見える化」を一層推進する</li> <li>・生徒によく考えさせ表現させる指導をする</li> <li>・生徒の言語能力を意識して伸ばす指導をする</li> <li>・「総合的な学習の時間」の内容の整理と段階性の工夫を更に進める</li> <li>・震災を知らない世代への防災教育を計画実施する</li> <li>・「心の教育」の積極的な推進を工夫する</li> <li>・東京オリンピックを活用した指導をする</li> <li>・小学校やPTAと連携した指導をする</li> <li>・健康課題に対する継続的なアプローチをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを更に活用し意識化した指導を進める</li> <li>・ステップノート、ステップカードの効果的な活用を工夫する</li> <li>・生徒会活動を更に充実させ、生徒の誇りとさせる(生徒の発案、提言、決議、新しい伝統)</li> <li>・「鹿3運動」を拡充し取組の定着を図る</li> <li>・新しい「授業の6原則」を作成して具現する</li> <li>・掲示物、掲示コーナーの更なる工夫をする</li> <li>・生徒の「あいさつ」を指導して更なる進化を促す</li> <li>・安全安心や効率化を目指して施設を一層整備する</li> <li>・困りごとや支援ニーズを有する生徒と定期的な相談をして対策を樹立し、外部との連携を図る</li> </ul>

### (3) 教師の在り方と保護者との協調

この実践や実践の継続には、教師同士の情報交換や連携の充実が必要だと思われます。また、教員研修を今まで以上に充実させることも大切です。教師の健康や規律の保持、適切な働き方の推進は当然のことです。とりわけ、学校と保護者との丁寧な対話による相互理解と相互協調の充実が今後も重要なことだと思えます。

評価のまとめを最後までお読みいただき、ありがとうございました。以上のように、今年度の学校評価をまとめました。どうかご理解いただき、家庭教育にお役立ていただくとともに、今後の鹿折中学校の教育にご協力をお願いいたします。(問合せ先：教頭、電話22-6764)